

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

大学院	電気通信学	研究科	博士前期課程	情報通信工学	専攻
氏 名	楊 蕾			学籍番号 0430049	
論 文 題 目	遠隔講義における受講生反応の教師側への伝達に関する研究				
<p>要 旨</p> <p>ネットワーク時代に誕生した新しい教育形式のeラーニングは近年広く注目され、世界的規模で展開している。eラーニングそのものは、個別学習環境を保障する手段、または新しい学習エコロジーとして、技術的かつ教育的、さらに経済的観点から研究、開発、実践が行なわれている。この個別的な学習エコロジーをより豊かなものにするためにグループ学習という学習形態がブレンドされ、さらに従来の教室教育型の中でのeラーニングのあり方も模索されている。「e-Japan戦略」の推進とともに高等教育を先駆けにして、初等中等教育および生涯学習もeラーニングへと急速に進みつつある。その中で、近年遠隔講義というインターネットなどを利用した双方向型の講義の教育方法による単位修得の認定が実現され、将来たくさんの学生が遠隔講義を使用した高等教育を受けることが期待される。</p> <p>しかし、現在開発されている遠隔講義システムでは教師が遠隔地受講生の受講状況が全く分からないことが大きな問題となっており、遠隔教育の教育効果の有用性の低下の一つの原因でもある。そこで教師に遠隔地受講生の受講状況を把握させる教育支援システムの研究、開発が必要である。</p> <p>本研究では簡単な方法で教師に素早く学生の受講状況を把握させる方法について検討を行っている。</p> <p>本研究の内容は以下の3つに基づいている。</p> <ol style="list-style-type: none">1. インターネットを利用して収集された受講生の受講情報は今後の教育活動に対して有用な指向性を持つ特徴があるため、近い将来の受講情報も予測ができる。これらの情報をうまく利用すれば教室教育と同じ教育効果を得ることができる可能性がある。2. 現存の遠隔講義教授法の分析を元にしてネットワークシステムの運営管理のコストを下げるとともに学生の受講状況を把握できる実現方式を提案する。提案方式の簡便さおよび有効性などについて評価する。3. 瞬間的に学生の受講状況を把握できる受講情報データの視覚的な表現形式について検討する。 <p>そして、教育過程にとって最も大切な理解度に注目して、提案した「アンケート方式」システムを用いて実験を行った。実験の結果を通じて教師に学生の受講状況を把握させることは教育効果の向上に有効であることを示した。また、受講生アンケートページの質問項目の適切さ、教師側ページの受講生反応データのグラフ表示機能、文字情報表示機能についても評価を行った。さらに、提案した「アンケート方式」システムの改良点を明らかにした。</p>					